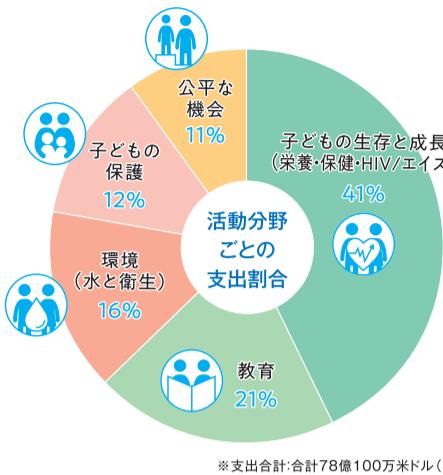


皆さまからのご寄付が 子どもたちの大きな支えとなっています

ユニセフの総収入の内、22%が世界中の民間の皆さまから寄せられたご寄付でした。



ユニセフと各国ユニセフ協会(ユニセフ国内委員会)

ユニセフ(国際連合児童基金)は、すべての子どもの命と権利を守るために、最も支援の届きにくい子どもたちを最優先に、約190の国と地域で活動している国連機関です。国連予算の配分は受けず、子どもたちのための支援は、皆さまからのご寄付と各国政府などからの任意の拠出金に支えられています。

また、世界32の先進国・地域には、民間におけるユニセフ支援の公式窓口であるユニセフ協会が置かれており、ユニセフとの協力協定に基づき、ユニセフを支える募金活動、ユニセフや世界の子どもたちの広報活動、子どもの権利の実現を目指して行うアドボカシー(政策提言)活動を取り組んでいます。各国ユニセフ協会における国内事業も皆さまからのご寄付に支えられています。



子どもたちのための あたたかいご寄付をお願い申し上げます

ユニセフ募金

郵便局(ゆうちょ銀行)から

全国の郵便局(ゆうちょ銀行)からお振込みいただけます。窓口をご利用の場合、硬貨取扱料金を含む振込手数料が免除されます。

振替口座:00190-5-31000

口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

インターネットから

パソコン・スマートフォン(www.unicef.or.jp)からクレジットカード、コンビニ支払い、Amazon Pay、携帯キャリア決済、インターネットバンキングをご利用いただけます。



ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム

毎月ご任意の一定額を金融機関の口座、またはクレジットカード決済による自動引き落としてご寄付いただく「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」に、ぜひご参加ください。世界の子どもたちの状況やユニセフの支援活動についてご報告する広報誌「ユニセフニュース」(年4回発行)をお届けいたします。

お申込みは当協会ホームページまたはフリーダイヤルへ。

※公益財団法人日本ユニセフ協会へのご寄付は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、法人税の控除対象となります。



親子で学べるユニセフハウスへぜひお越しください／

ユニセフハウスは、世界の様々な状況で生きる子どもたちと、体験型展示を通じて出会い、「子どもの権利」について感じ、学び、考えられる展示スペースです。子どもから大人まで、幅広い方にご利用いただけます。<第17回キッズデザイン賞受賞>



アクセス	JR 京浜急行 品川駅 または地下鉄都営浅草線 高輪台駅より徒歩7分
開館日・時間	平日と第2・第4土曜日10:00~17:00(祝日を除く)



公益財団法人 日本ユニセフ協会(ユニセフ日本委員会)

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

フリーダイヤル: 0120-88-1052 (平日 9:00~17:00)

ホームページ: www.unicef.or.jp

各種SNSも
ぜひご覧ください
 @unicefinjapan
 @UNICEFJapanNatCom @UNICEFinJapan

日本ユニセフ協会の活動

募金活動

当協会ホームページやダイレクトメールを通じた都度のご寄付に加えて、任意の一定額を毎月の自動引き落としてご寄付いただく「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」へのご参加をお呼びかけしています。また、選択いただいた支援物資を子どもたちに届ける「ユニセフ支援ギフト」のほか、「ユニセフ遺産寄付プログラム」、「外国コイン募金」など様々な方法でご協力をお願いしています。紛争や災害などの緊急事態下の子どもたちの支援のための緊急・復興募金も受け付けています。「ガザ人道危機 緊急募金」、「ウクライナ緊急募金」、世界中で頻発する地震や洪水などの影響を受ける子どもたちのための「自然災害緊急募金」などへのご協力を呼びかけています。さらに、皆さまにボランティアとして募金活動にご参加いただく「ユニセフハンド・イン・ハンド募金」を街頭およびオンラインで開催しました。

ご協力いただきました皆さん
心より御礼申し上げます

広報活動

世界約190の国と地域で展開するユニセフの活動や、困難な状況に置かれている子どもたちの現状を広く知るために、プレスリリースやホームページ、SNS、資料、企画展示などを通じて情報発信を行っています。また、子どもを取り巻く課題やユニセフの取り組みをより身近に感じていただけるよう、ユニセフ現地報告会や講演会、シンポジウムなども開催しています。さらに、子ども向けユニセフ学習資料の制作・配布、児童・生徒対象のユニセフ教室への講師派遣のほか、ユニセフ職員や各分野の専門家を講師に迎え、学生を対象とした国際協力講座を実施しています。

こどものけんりプロジェクト



こども家庭庁と共に開催する子どもの権利の啓発普及キャンペーン「こどものけんりプロジェクト」は2年目を迎え、NHKエデュケーションの協力のもと、子どもの権利の正しい理解と普及のための教材や、その活用をサポートするツールの提供を引き続き行っています。日本ユニセフ協会創設70周年にもあたる2025年は、子どもや若者の声を未来に残すための取り組み「ユニセフ気候変動アクション2025」を実施。気候変動について学べる特設サイトやSNSなどで集めた300以上の意見は、有志の学生によって提言としてまとめられ、ユニセフがCOP30へ届けました。プロジェクトのテーマソング「“こえ”のうた」は英語版、合唱版に加え「みんなの“こえ”のうた(インクルーシブver.)」を公開。応援キャラクターであるジーンとケーンはNHK Eテレ「The Wakey Show」に出演しています。2030年3月までの間、様々な企画に取り組んでまいります。

特設ページ
はこちら



アドボカシー(政策提言)活動

子どもの権利の実現を目指し、子どもに関する課題への理解を広げ、社会に変化を促すために、子どもに身近なところから政策レベルまで様々な活動を展開しています。学校現場では、教員向けの研修や教材の作成・配布を通じて「子どもの権利を大切にする教育」を推進しています。また、自治体と連携して実施する「子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)」では、子どもが主体となるまちづくりを後押ししています。さらに、子どもを取り巻く課題解決に向けて関係省庁と連携を深めるほか、先進国の子どもの状況を比較・分析した報告書シリーズ「レポートカード」を通して、日本の子どもの状況を広く伝えています。

2024年度収支報告

皆さまからお預かりした募金総額の85.9%にあたる251億6,200万円をユニセフ本部に拠出しました。また、支援先の国や地域、分野を限定せず拠出する「通常予算」への拠出額は、205億9,128万円となり、2024年度、各国政府・国内委員会(ユニセフ協会)のなかで最も高く、最も困難な状況にある子どもを最優先で支援するユニセフの取り組みに大きく貢献しています。

また、2024年度、当協会は経常費用計の14.4%で国内での募金・広報・アドボカシー(政策提言)活動や国際協力に携わる人材育成活動などを実施しました。各国ユニセフ協会は、ユニセフとの協力協定に基づき、ご寄付の25%以内で、世界の子どもたちの状況をより多くの方に知つていただき、ユニセフ支援の輪を広げる国内事業を行っており、今後も効率的な事業推進に努めてまいります。

●収入内訳(公益目的事業会計)

経常収益計 29,406,798,487円

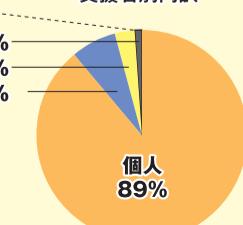
会費 30,730,000円
寄付金 50,025,514円

募金 29,295,852,400円

雑収益ほか 30,190,573円

ユニセフ募金 29,295,852,400円

支援者別内訳



財務諸表などはすべて当協会ホームページで公開しております。
なお、2025年度の収支は2026年4月に当協会ホームページで
ご報告いたします。

●支出内訳(公益目的事業会計)

経常費用計 29,410,074,666円



うち、事務運営費および人件費(※) 2.1%

*1 新公益法人会計基準に則り、公益目的事業会計の各事業費に配賦されている、事務運営費(正味財産増減計算書の光熱水費、火災保険料、施設管理料、建物減価償却費、什器備品等減価償却費)及び人件費(給料・報酬、福利厚生費、退職給付費用、賞与引当金繰入額)。詳しくは正味財産増減計算書をご覧ください。

*2 「世界子供白書」「ユニセフ年次報告書」などの刊行物の作成・配付、ホームページの作成・更新、現地報告会やセミナー、シンポジウム開催、広報・アドボカシー・キャンペーンなどの費用

*3 全国27の協定地域組織による広報・啓発活動関係費

*4 國際協力に携わる人材育成にかかる費用

2025年版

ユニセフ活動報告

世界の子どもたちへあたたかい
ご協力をありがとうございます



unicef

子どもたちへの成果

ユニセフは最も支援の届きにくい子どもたちを最優先に、世界約190の国と地域で活動しています。

公平な機会

スー



すべての子どもが安心して過ごせる場所

9歳のアルスマニーさんは生まれつき障がいを抱えていますが、多くのことを自分の力でこなすことができる、たくましい男の子です。

スーの国内紛争により数百万人が避難生活を送っています。特に、障がいのある子どもたちは差別や暴力の危険にさらされ、避難生活の混乱や新しい環境への適応は、彼らの日々の困難をさらに深めています。

アルスマニーさんが暮らす避難所では、ユニセフが支援する子どもたちが安心して過ごせる「子どもにやさしい空間」が整備されており、学習や心理社会的支援、医療、子どもの保護に関するサービスも提供されています。

今日はアルスマニーさんにとって特別な日です。デジタル学習の授業があるからです。タブレットとヘッドフォンを手にした彼は仲間たちと笑顔で学習に取り組みます。個別指導のおかげで、彼も無理なく授業に参加できます。担任の先生は「彼は毎朝ワクワクしながら来て、積極的に活動に参加しています」と話します。アルスマニーさんはアルファベットや色をゲーム形式で学び、遊びの中に学びの楽しさを見出しています。学習の後には、サッカーの時間が待っています。「子どもにやさしい空間」は、障がいのある子どもたちにも、希望と学びの場を提供しています。



© UNICEF/UNI529015/Ahmed Elfatih Mohamdeen

教育

シ



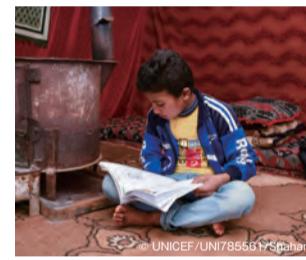
もう一度、学びのチャンスをつかんで

13歳のモハメドさんは、紛争が激化した故郷の町から逃れ、シリアのダラア郊外で家族とテントで暮らしています。

6年前のある日、モハメドさんは道端である箱を見つけ、おもちゃだと思って近づきました。しかし、それは不発弾でした。爆発の瞬間、モハメドさんは右腕と左手の指を数本失い、この日を境に、心を閉ざし、引きこもりがちになりました。「自分がまわりより劣った人間だという気持ちがいつも拭えなかったんだ」と、当時のことを話します。

大きな転機が訪れたのは、1年前。ユニセフが支援する移動教育チームが、学校に通えない子どもたちのために、彼の住む地域を訪れたのです。「知らせを聞いた時、胸がいっぱいになつたよ。ようやく僕にも遅れを取り戻すチャンスが来たんだ」と目を輝かせるモハメドさん。朝に授業を受け、昼間は羊の放牧を手伝い、夕方に2時間かけて授業の復習と宿題を行い、夜には弟たちに文字を教えるのが日課になりました。父親は、「学び始めてから、決意と意欲にあふれ、周囲の人々をすすんで助けるようになりました」と誇らしげです。

一家は、故郷の町へ戻ることを決めました。「今では文章もすらすら読めるし、難しい計算だってできる。学校に行く準備はできているよ」そう語るモハメドさんの顔には、自信と希望があふれています。ここから、新たな旅が始まるのです。



© UNICEF/UNI785561/Spanan

環境(水と衛生)

バ



自然災害に負けない村づくりを

母親からユニセフのタンクを大切に受け取る5歳のイスラットちゃん。そのタンクには、新しい井戸からくみ上げた、きれいな水が満たされています。今では、家族は水質汚染の心配なく、この水を飲用や料理に使うことができます。しかし、ここに至るまでの道のりは、決して平坦ではありませんでした。

2024年8月、バングラデシュ東部のフェニ地区を記録的な大洪水が襲い、200万人以上の子どもたちが被災しました。地域の2つの浅井戸は、洪水による浸水で完全に汚染され、下痢やコレラなどの病気の温床となってしまいました。住宅は砂や泥に覆われ、トイレも破壊されました。すじ詰め状態の避難所では、食えと混乱の中、人々は不安な日々を過ごしていました。

ユニセフは、洪水発生の当日から緊急支援を開始。浄水剤、飲料水、食料に加え、石けんや洗剤、服、タオル、おむつなどの必需品がセットになった「水と衛生キット」を迅速に届けました。さらに、バングラデシュ政府と連携し、浸水した給水所の消毒、トイレの修復、水道管の修繕、新しい井戸の建設など、村の復旧支援も実施しました。

新しい井戸は、地面から1メートル高い場所に設置され、浸水や水質汚染のリスクを最小限に抑える設計です。ユニセフは災害の直後だけでなく、自然災害に強い持続可能な村づくりまで、一貫した支援を続けています。

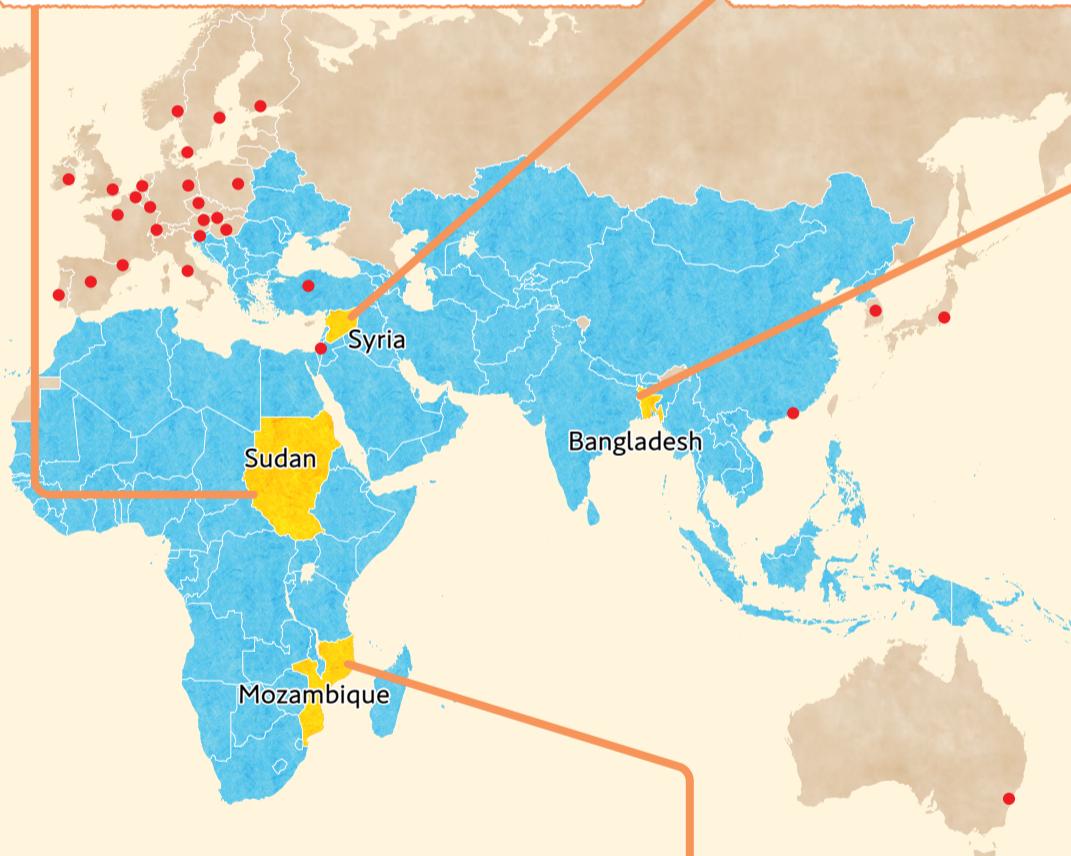


© UNICEF/UNI789731/Mukut

■ ユニセフが支援プログラムを展開する国と地域

● 32のユニセフ協会（ユニセフ国内委員会）

※地図上の国境線は図示目的であり、その法的地位についてユニセフやユニセフ協会の立場を示すものではありません。



ユニセフの支援実績

56億米ドル分の支援物資とサービスを調達

28億回分の予防接種用ワクチンを99か国の子どもたちに提供

3,300万人以上に、安全な飲み水へのアクセスを可能に

2億5,100万人の5歳未満児に、栄養不良による消耗症の早期発見の支援を実施

(2024年実績)

子どもの保護

グアテマラ



絶望を乗り越えた先の希望

17歳のルナさん（写真右）は、グアテマラで暮らし、学校に通う普通の女の子でした。しかし、家計を助けるために働きに出た先で、見知らぬ男性に声をかけられ、性的暴行の被害に遭いました。彼女は深く傷つき、学業への意欲を失い、自ら命を絶とうとするほど追い詰められていました。

子どもや若者への性的暴力は、妊娠、メンタルヘルスへの深刻な影響、偏見や差別、感染症、薬物依存など、様々な問題を引き起こす可能性があります。報告されていない被害は、報告件数の5倍にのぼるとされており、支援の拡充が急務です。ユニセフは、グアテマラ国内で1,000人以上の子どもや若者に対し、性的暴力の被害に対する心理的ケアを提供し、家族にも支援を行っています。また、2万人以上の子ども、保護者、教育関係者に対して、予防と対応に関するワークショップを実施、地域に根ざし取り組みを進めています。

ルナさんは、ユニセフのパートナー団体の心理士の家庭訪問による心理的ケアと社会的支援により、少しずつ心を取り戻していました。「私の目標は看護師になって、人々を助けられるようになります。私は幸せを感じていて、人生には意味があると感じています。私は生きたいのです」と語ります。被害を受けた子どもたちが笑顔を取り戻し、未来を描けるよう、ユニセフは子どもたちに寄り添い続けます。※名前は仮名です。



© UNICEF/UNI657665/Izquierdo

子どもの生存と成長

モザンビーク



村に希望を届ける、小さな光と移動診療チーム

モザンビークのザンベジア州ムエベの農村では、元気に走り回る5歳のルジーニヤちゃんを、母親のジョニータさんが笑顔で見守ります。

この日、村を訪れたのはユニセフが支援する移動診療チーム。医療スタッフがバイクに医薬品を積み、予防接種や栄養指導、HIV検査などの基本的な医療サービスを毎月、提供します。かつて住民は最寄りの保健センターまで15キロ歩かなくてはならず、農作業や家事、育児に割く時間が失われ、通院をあきらめる母親もいました。その結果、子どもが十分な治療を受けられず命を落とすこともあったのです。「病院でしか受けられなかった医療が、今は村でも受けられるようになりました」とジョニータさん。彼女は数年前に娘をマラリアで亡くし、「移動診療チームが来てくれたなら、娘の命は救えたはずだ」と語ります。深い悲しみを抱えながらも、今は地域の子どもたちが守られていることに安堵を覚えています。

毎月、地元出身の若い医療スタッフが2人来てくれるため、住民の信頼も厚く、診療所の雰囲気には安心感が漂います。ルジーニヤちゃんも泣かずに注射を受け、走り回ります。

ユニセフは3つの州で移動診療チームを派遣する支援を展開しており、1年間で14万9,000人以上の2歳未満の子どもたちが医療サービスを受けました。移動診療チームは子どもたちの命を守る希望となっています。



© UNICEF Mozambique/2024/Ricardo Franco